

NGワードその③ 「やりたくないならやらなくていい!」「もう知らないからね!」「勝手にしなさい!」

「売り言葉に買い言葉」ではないですが、ヒートアップしてくると、こういった言葉が出てしまいますよね。子供は、突き放した言い方をされると「嫌われてしまった」と思って傷ついてしまいます。高学年になると、さらに反抗的になって口を利かないなどの態度をとってしまうこともあると思います。

そんな場面では、「やりたくないんだね。」「そういうときもあるよね。」「いったん受け止め、「何か理由があるのかな?」などと、子供の気持ちを引き出す言い方に換えましょう。子供も、「なぜやりたくないんだろう。」「どうすればいいんだろう。」「と内省することにより、気持ちを切り替えるきっかけがつかめます。

また、「それをするこの意味」を考えさせるのもよいと思います。

たとえば、「勉強は、誰のためにするのか?」「宿題は何のためにするのか?」などと問いかけると、そこで冷静になって考えることができます。「自分のためにする」という答えを導き出せたなら、机に向かうようになるでしょう。

終わりに

親の役割はいろいろありますが、子供が自分で考え、自分で物事を選択していけるような自主性や主体性を育てることもその一つだと思います。

毎日の「言葉」が、子供の思考を作り上げていきます。親の思うように行動できていなくても、あるがままを受け止めて、否定的な言葉ではなく、肯定的な優しい言葉を使って、お子さまの自己肯定感を高めてあげてください。十分に受け入れられてこそ、子供は自信をもつことができます。自信をもつことによって、自分の足でしっかり歩けるようになります。